

妙高西条農園 おたより

No. 1 2 5
5 月 号
2021.5.23

4月3日に播種した、コシヒカリの苗も、5月の連休には、苗丈も15cm程に生長しました。この間ハウス内の水管理はもちろんですが、以前から使用している、スギ、マツ、ヒノキ等の植物から作られた、植物を元気に生長させる、HB-101 及びウツトンバ

イオスターを数回散布して今年も丈夫で揃った苗ができあがりました。

圃場では、耕耘の終わった圃場に、用水から水を通水し代掻きの準備に入るわけでは



十分に育ったハウスの苗

るのが、刈り払い機です。



自走式草刈り機

当農園では、刈り払い機を、畔の条件により使い分け、これから秋の収穫が終わるまで4〜5回除草作業をおこないます。

5月3日から用水路より圃



場への水入れを行い4日から圃場の代掻きを開始しました。今年の連休は

天候にも恵まれ妙高山の跳ね馬も鮮やかに見え順調に代掻き作業が進みました。代掻き作業も1回目は低速で丁寧に行い2回目は圃場の高低差を



なくすように行うことで田植えの作業がスムーズに行うことが出来ます。代掻きや畦道



孫娘が田植え機で応援

の除草作業が進んだため予定より1日早く9日の日曜日から田植えをはじめました。今年も2人の孫が圃場のならし作業や苗運びに田植機の運転まで手伝ってくれたので、2畝の圃場の田植えも2日間で終了することが出来ました。

田植えの作業は昔は全て手作業で行っていましたが、大変な重労働でしたが、50年ほど前に田植機が導入されたことで、腰痛で悩まされてきた田植えの作業から解放されるようになりました。とはいっても、現在のように運転席に座って自動車のようにハンドル操作で田植えが出来るまでには、時間が掛かりました。最初に導入された田植機は二条植えでももちろん運転は歩行で行いました。現在の田植機は五台目の田植機です。

とはいっても、圃場の隅はわずかで、機械では



は植え残しが出来てしまうので、昔ながらの手作業で補植を行っています。

田植えを行った後はそのまま秋の収穫を待てばいいのですが、中々そうはいかないので、毎日の水管理、圃場内の除草、江立て中干し、追肥・穂肥の散布に前述の畦道の雑草刈作業がつづいています。このような作業については、毎月の農園たよりでお知らせしてまいります。



ニンニクの生育状況

今年も当農園のニンニクが旺盛に生育しています。来月に収穫して、7月には黒ニンニクができあがります。

発行者

〒944-0023

新潟県妙高市西条 755
妙高西条農園 池田博子
TEL 0255 72 3497